

検証

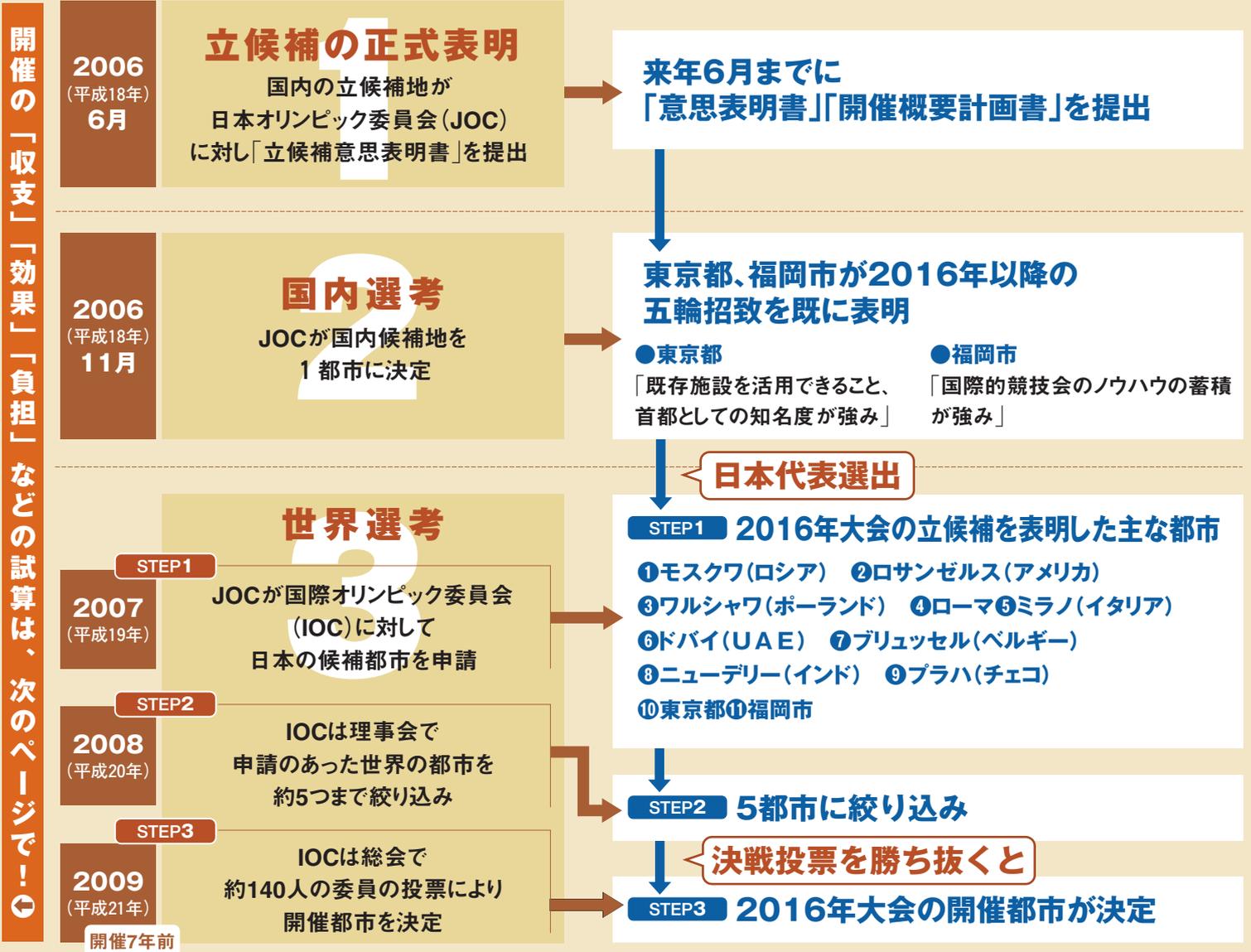
開催都市決定までの道のり

各国ナンバーワンの選手たちが一堂に会する、四年に一度の夢の祭典、オリンピック。国や民族という枠組みを超えた平和の象徴としても広く知られています。一九八〇年代にはプロ選手の参加、商業主義の導入に踏み切り、今や地球規模で最も注目を集めるイベントとなりました。

オリンピックの招致は、国ではなく、都市が基本単位となります。開催都市として立候補するには、まずは国内の選考に勝ち抜かなければなりません。たとえ世界の舞台に立ったとしても、都市間の招致競争が行われず。

そうした状況を踏まえ、各都市は他都市の動きも見極めながら、幾度かの挑戦も視野に入れて招致の意向を表明しています。

2016年大会を例とした開催都市決定までの流れ



世界選考の基準

1 開催理念・計画

開催都市と国・スポーツ界が一体となって、世界にアピールする理念と綿密な計画を作成する必要がある。

2 評価項目

「財政」「競技会場」「宿泊施設」「オリンピック村」「環境問題」「輸送」「パラリンピック」

3 決定のポイント

- 日本は、64年夏の東京に加え、札幌、長野と2度の冬季五輪を開催。次回は4回目。
- 現在の参加国・競技数では、交通手段など一定の基盤を備えた大都市が選ばれる傾向にある。

歴代の開催都市(1980年以降)

開催年	開催都市	国	参加国数	選手数(人)
1964	東京	日本	93	5151
1980	モスクワ	ソ連(当時)	80	5615
1984	ロサンゼルス	アメリカ	140	6829
1988	ソウル	韓国	159	8391
1992	バルセロナ	スペイン	169	9356
1996	アトランタ	アメリカ	197	10318
2000	シドニー	オーストラリア	200	10651
2004	アテネ	ギリシャ	202	11099
2008	北京	中国	—	—
2012	ロンドン	イギリス	—	—